



只見町ブナセンターだより

<ごあいさつ>

紅葉は終わり、1000m を超える山は雪化粧をしています。ミュージアムからよく見える浅草岳では、10 月 26 日に初冠雪が確認されました。11 月 18 日には平地でも初雪が観測され、冬の訪れを感じます。雪景色が美しい冬の只見町へ、ぜひお越しください。

===== 開催案内 =====

【企画展】

企画展アーカイブ「只見の哺乳類とその生態」

只見町には、豪雪の影響を強く受けた雪食地形やブナ林をはじめとした様々な森林群集からなるモザイク植生が発達し、多様で複雑な自然環境が形成されています。また、奥山には原生に近い状態で広大な自然林が残されていることから、多くの野生動物が生息しています。

野生動物のうち、哺乳類は只見町で 37 種が確認されています。しかし、これらの多くは夜行性あるいは森林性であるため、私たちが直接目にする機会は多くはなく、その生態についてもあまり知られていません。近年では、日本各地において哺乳類による農林業被害や人身被害が発生しており、大きな社会問題となっています。只見町のような山間地域では、野生動物と隣合わせて生活していかなければならず、その生態について知ることが重要です。

本企画展は、過去に只見町ブナセンターが開催した【企画展(改訂版)】「只見の野生動物とその生態」のアーカイブ展になります。只見町で確認されている哺乳類各種の生態をセンサーカメラが捉えた写真、町民から寄贈された剥製などをまじえて紹介します。



■会期 2025/12/6(土)~2026/3/30(月)

■会場 ただみ・ブナと川のミュージアム 2階 ギャラリー

【自然観察会】

夏のブナ林観察会-ブナ林の樹木を極めよう-

6月28日(土)、ただみ観察の森・梁取のブナ林で観察会を開催し、11名が参加されました。今回の観察会のテーマは”ブナ林の樹木を極める”ことを目的に、ブナ林を散策しながら、ブナ林に生育する樹木について学び、理解を深めていただくのが狙いです。この林にはおよそ60種類の樹木が生育していることがわかっています。樹木リストをもとに、各自で見つけた樹木について、紙谷館長が詳しく解説しました。只見のブナ林の林冠(林の上層)を構成する高木の樹種は多くありませんが、林床(林の地面近く)に生育する樹種は意外に多いものです。歩き始めて直ぐに次々に樹木が出現し、また、参加者からの質問も多く、予定の時間内では20数種にとどまりました。ブナ林の樹木を極めるには繰り返し観察する必要があるそうです。それでも、わかるようになってくると面白いものです。



夏のブナ林観察会 part2-ブナ林の樹木を極めよう-

7月27日(日)、夏のブナ林観察会の part2 をただみ観察の森・梁取のブナ林にて開催し、11名が参加されました。前回の夏のブナ林観察会(6/28)では観察しきれなかったため、続編という形で開催しました。

前回観察し終えた位置から始め、紙谷館長から林冠が開いたギャップに出現した多数の樹木や薪炭利用された林の特徴について解説しました。森ネズミによって種子が運ばれたと思われるクリの稚樹や、ブナと細根を介して共生関係にあるキノコのタマゴタケも観察できました。

途中の休憩ではブナ林ブレンドプロジェクト(ブナ林に生育する樹木であるブナ、オオバクロモジ、ケアブラチャン、キブシの枝葉をブレンドして、お茶や漬け酒などの商品開発に活用するプロジェクト)で開発されたお茶の試飲もしていただきました。ブナ林ブレンドのお茶は、爽やかで森を感じられると好評でした。

ブナ林に生育する樹木もだいぶ覚えていただき、ブナ林により親しみを感じていただく観察会になったようです。今後、別の観察の森でも”ブナ林の樹木を極める”を企画する予定です。皆さんで只見町の樹木を極めましょう。



初秋のブナ林観察会-溪流が流れるブナ林を楽しむ-

9月7日(日)に布沢・恵みの森にて、初秋のブナ林観察会を開催し、33名が参加されました。前日のブナセンター講座で講師を務めていただいた河口洋一博士(新潟大学佐渡自然共生科学センター教授)に同行・解説していただきました。

恵みの森では溪流沿いに溪畔林が発達しています。こうした溪畔林からは葉などの有機物が溪流に供給されます。溪流の落ち葉を見ると、葉の種類によって分解の進具合に違いが見られました。例えば、ブナよりもカエデの葉で、より分解が進んでいました。これは、葉の種類によって強度や成分が異なるためで、水生昆虫による分解速度が異なると考えられます。水生昆虫はこうした落葉を利用して生活しています。さらに、溪流の中の落ち葉や石の裏にいる水生昆虫を探しました。ヘビトンボ、カワゲラ、カゲロウ、トビケラなどの幼虫が観察できました。こうした昆虫はイワナの餌としても重要です。

河口博士にはイワナの成育環境や産卵に適した地形の特徴についても解説していただきました。イワナは、流れの緩い場所から、早い場所にかけて穴を掘り産卵を行います。このような場所は、流水によって酸素が運ばれるため、卵の孵化に適した環境となっています。実際に恵みの森の中で、産卵に適した場所を解説していただきました。

涼やかな溪流歩きを楽しみながら、川辺の生態系について理解を深めることができました。



秋のブナ林観察会- 秋の実りと哺乳類-

10月26日(日)、新潟大学名誉教授の箕口秀夫博士を講師にお迎えし、余名沢の森にて秋のブナ林観察会を開催しました。18名が参加されました。

観察会では、森林の観察をしつつ、前日に仕掛けたシャーマントラップ(小型哺乳類の捕獲用トラップ)の確認を行いました。昨年開催した同様の観察会では捕獲できませんでしたが、今年は森に暮らすアカネズミとヒメネズミが多数捕獲できました(事前に福島県の許可を取得し捕獲を実施しました)。昨年と違い、今回捕獲できたのは天候が雨だったためと考えられます。森のネズミは、天敵に狙われやすい晴れの日よりも、雨の日で行動が活発になるからです。箕口博士には捕獲したネズミの種類の見分け方や特徴について解説していただきました。また、捕獲したネズミを逃がす際には、両種の逃げ方の違いも観察することができました。

遊歩道では、ツキノワグマが齧ったと思われる標柱や、ツキノワグマの毛が付着した標柱の破片が見つかりました。箕口博士よりツキノワグマのなわばりの主張に関連した行動についても解説していただき、只見町の哺乳類について学ぶことができました。



【講座】

イワナを育むブナの森：森と川のつながりを知る

9月6日(土)、新潟大学自然科学共生センターの河口洋一博士を講師にお迎えし、只見町ブナセンターの講座を開催しました。参加者は26名でした。

講座では、河口博士のご専門である「森と川のつながり」に関する研究の紹介を中心に進められました。森と川のつながりに関係する、溪畔林や落ち葉の役割について説明がありました。その溪畔林は、日射を遮断して水温を低く保ち、イワナなどの溪流魚が生息しやすい環境をつくっています。落ち葉は水生昆虫の餌として分解され、その昆虫が成長して羽化すると、陸上の捕食者に食べられます。このように水域と陸域のエネルギーの循環が、河川の生態系を作っているということでした。

次いで、河口博士が行った森と川のつながりについての調査研究の紹介がありました。50メートルほどの区間の川をビニールハウスで覆い、ビニールハウスで覆わなかった川との間で、落下昆虫と生息する魚類の量の違いを比較したのです。その結果、ビニールハウスで覆った川では落下昆虫と魚類の両方の量が減少しました。実験結果から落下昆虫の種類や数が多い河川環境ほど、生息する魚類が多いということが分かりました。

最後に河口博士は、身近な環境へ関心を持ち、生物の世界を知り、視野を広げることが大切であるとお話で締めくくられました。



どんぐりコロコロどこへ行く～堅果類の散布様式～

10月25日(土)、新潟大学名誉教授の箕口秀夫博士を講師にお迎えし、只見町ブナセンターの講座を開催しました。参加者は18名でした。

講座では、森林と動物の相互関係、特にどんぐり(堅果)とネズミの関係を例に、堅果をつくるブナやコナラなどからなる森林に与える動物の影響についての話を中心に進められました。

はじめに、堅果類に対する動物の進化・適応について解説していただきました。多くの動物の食糧となる堅果類ですが、すべて食べられてしまうと、樹木は世代交代ができなくなってしまう。そこで樹木は、堅果が食べられすぎないための工夫をしています。例えばタンニンやサポニンという弱毒物質がどんぐりに含まれることによって、動物は一度に多く食べられません。また、樹木は、豊作年に大量の堅果を落とすことによって、不作年の餌不足で数を減らした動物が食べきれない堅果を貯えさせることに成功しています。

箕口博士が行なった研究では、貯えるために持ち去られたその堅果は、定住性が強いメスのネズミは、巣穴に比較的近くかつ深い位置に貯蔵し、移動性の強いオスは分散して、浅い位置に貯食していました。オスが持ち去ったどんぐりで発芽率がより高くなることから、効果的に種子散布が行なわれていることが分かりました。

最後に箕口博士は、どんぐりとネズミの関係性を通して、今一度どんぐりと自分たちとの関係、そして森づくりについて見つめてもらいたいと、お話をまとめられました。



【只見町ブナセンターの教育支援】

只見小学校の総合的な学習の時間を支援

7月2日(水)、只見小学校の3・4年生の総合的な学習の時間を支援しました。今年度、只見小学校3・4年生は只見町の自然と食について学んでいます。今回は、川での生き物探しをしつつ、どのような環境に生き物がいるのか、食べられる生き物はあるのかを学ぶ機会としました。

石の下や、河岸から川に向かって生えた草木の茂みの下などで、手網を使って、ガサゴソして生き物を探しました。淡水魚は、イwana、ヤマメ、ウグイ、カジカ大卵型、アブラハヤ、アカザ、シマドジョウ、カマツカ類など少なくとも8種を確認できました。そのほかにもエビ、ヤゴ、カジカガエル(成体、オタマジャクシ)などの生き物も確認できました。これらの中で、只見町で一般的に食されるのはイwana、ヤマメ、ウグイ、カジカです。

見つけた生き物たちは、水中の浮石の下や草木の茂みの下にいました。こうした生き物たちが隠れられる環境があってこそ、多様な生き物が生息できるのです。そして、私たちは食を通してそれらの自然の恵みを享受できています。只見町にはまだそのような貴重な環境が残されていますので、今後もみんなで守っていきましょう。小学生の頃からこうした自然体験ができる只見町は本当に恵まれていると改めて実感できました。



ぶなのもりこども園の園児たちと生き物調べ

7月10日(木)、只見町認定こども園「ぶなのもりこども園」の年長さんたちの生き物調べを支援しました。場所は町内の休耕田を利用したビオトープと山沿いの沢の2カ所。年長さん達は泥に入り、沢につかりながら楽しく生き物を採集しました。ビオトープでは羽化直後のオニヤンマも見ることができ、子ども達は大興奮でした。

採集した生き物はブナセンター職員が同定した後に写真を撮って記録し、こども園に戻った子ども達は自分で図鑑を開いて調べました。調べた生き物を発表した後は、お気に入りの生き物を木の枝と葉で作る活動を行いました。

自分たちが普段何気なく過ごしている自然に、たくさんの生き物がいることを楽しみながら学ぶことができたようです。多様な自然環境に恵まれた只見町ならではの活動でした。



【アートワークショップ】

ブナの森を泳ぐ

7月21日(月・祝)、福島県主催、福島県立博物館・ブナセンター企画運営のアートワークショップが開催されました。アーティストの岩田とも子さんを講師としてお迎えし、町内外から16名の方にご参加いただきました。

はじめに、恵みの森でフィールドワークを行いました。ブナセンター指導員の案内のもと、沢沿いの植物、水中にいる生き物たちを観察しました。続いて、ブナの森を泳ぐためにはどうすればよいか、を参加者の皆様に考えてもらいました。岩田とも子さんより、水中眼鏡をかけてみるというアイデアが提案されました。参加者は水中眼鏡をかけて、ブナ林の中で寝そべり、ブナの森を泳ぐイメージを膨らませました。

ワークショップでは体験した「只見の夏のブナの森」をもとに、アクリル絵の具とクレヨンを使ってアクリル板に、葉っぱと泳ぐ、葉っぱの中を泳ぐ、葉っぱが泳ぐ、どこへ泳ぐ、の4つの問いかけから森の中の光景を描きました。その結果、39枚の素晴らしい作品が完成しました。

作品は、JR只見駅舎内に展示され、多くの方に見ていただきました。



ぶなのもり こども園の園児たちと只見こども芸術計画 その1

10月24日(金)、アーティストの岩田とも子さんを迎え、只見町認定こども園「ぶなのもり こども園」の年長さんを対象にアートワークショップを実施しました。これまではブナセンターが主催の一般公募型で行ってきた事業でしたが、今年度は新設されたこども園との共催で新たに実施しました。当初は、余名沢のブナ二次林へ行っのフィールドワークを予定していましたが、ツキノワグマの出没状況を考慮して、こども園の周りで実施しました。

今回のワークショップは、秋の自然を体験しながら、特に、音をテーマにしたものでした。散策しながらお気に入りの自然物を探して、拾いつつ、ところどころで耳をすませて音も拾います。フィールドワークの最後には拾った自然物を並べて「地面のピアノ」を作りました。お昼休憩をはさみ、場所を屋内に移し、拾った自然物を使い、アクリル板に秋の音を描きました。最後は、お気に入りの筆(描くために使った自然物)を箱に入れて、思い出を持ち帰ってもらいました。

子どもたちのアクリル板の作品は、JR只見線駅舎内に展示しました。また、展示スペースの看板(只見BAUM)も只見線子ども会議の皆さんに秋の装いにしていただきました。とても明るくて、優しい秋の展示となりました。



ぶなのもり こども園の園児たちと只見こども芸術計画 その2

11月7日(金)、アーティストの岩田とも子さんを迎え、前回に続いて只見町認定こども園「ぶなのもり こども園」の年長さんを対象にアートワークショップを実施しました。今回は、秋の風景や木の実の写真から「音」を感じた後、音を感じた写真の一部を切り取って白い紙に貼り付け、自分だけの楽器を作る、というコンセプトの作品作りに取り組みました。また、楽器の名前だけではなく、それを使う人や生き物の名前についても、子どもたちは深く考えました。そして、風景や木の実の写真を用いて、オタマジャクシ用のピアノや、ウサギが使うカスタネットなど、動物が自然素材の楽器を使うことを想像しながら作品を作っていました。



最後は、それぞれの作品について発表が行われました。岩田さんが優しく子どもたちへ問いかけながら、作品に込められた考えや思いを聞き出していました。発表の最後に、岩田さんは「みんなの作品を参考に、楽器を作ってみるのもいいかもしれません」とコメントされました。子供達の自由な発想や感性が存分に発揮されたワークショップとなりました。

===== お 知 ら せ =====

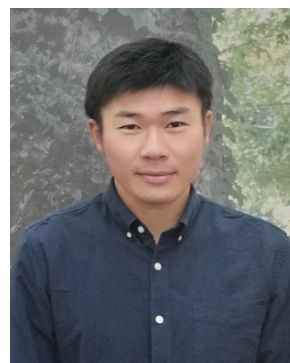
【只見ユネスコエコパークの登録継続が決定】

2025年9月27日、中国・杭州市において第37回 MAB 計画国際調整理事会 (ICC) が開催され、只見ユネスコエコパーク推進協議会が提出していた定期報告が審議されました。その結果、只見ユネスコエコパークは「Meets the criteria of the Statutory of Framework of the WNBR (ユネスコエコパーク世界ネットワークの法定枠組みの基準を満たしている)」と評価され、登録が継続となりました。

【新任職員紹介】

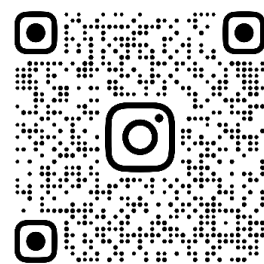
せんごく りく
千石 陸(ブナセンター指導員)

7月からブナセンター指導員になりました富山県出身の千石です。山登りが好きで、四季を通して只見の山や沢に足繁く通ってきました。只見に来て5か月が経ち、町民の皆様と交流する機会が増え、自然とともにある只見の暮らしを少しずつ学ばせていただいております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



【只見町ブナセンターのInstagramを開設】

只見町ブナセンターのInstagramを開設しました。フェイスブックと同様に、只見町の自然や暮らしに関する情報、当センター主催のイベントの告知、各種活動（自然環境の保護・保全、調査研究、地域振興など）内容の報告を発信しています。ぜひご覧いただき、フォローをお願いいたします。



TADAMI_BEECHCENTER



只見町ブナセンター 令和7年度行事一覧(予定)

企画展

会期	タイトル	会場
2025/12/6(土)～ 2026/3/30(月)	只見の哺乳類とその生態	ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

<編集後記>

全国的に頻繁に出没していたツキノワグマですが、只見町でも相次いで出没していました。ブナをはじめとする堅果類の不作が影響していたのかもしれませんが。秋に里に下りてきた熊は、栗やクルミをたくさん食べていました。幸い人身被害などはありませんでした。果たしてツキノワグマたちは、冬を越すための栄養を十分に蓄えられたのでしょうか。(千石)

発行 只見町ブナセンター

〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地



只見町ブナセンター



電話 0241(72)8355 ホームページ <https://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356 メール info-buna@amail.plala.or.jp

Facebook <https://www.facebook.com/tadami.buna>

Instagram https://www.instagram.com/tadami_beechcenter/

附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」・「ふるさと館田子倉」

開館時間：9:00～17:00（最終受付 16:00）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12/29～1/3）

入館料：高校生以上 310 円（20 人以上は団体割引）